事　務　連　絡
令和８年２月20日

地区及び職域薬剤師会　担当者　各位

公益社団法人 東京都薬剤師会

写しの通り、日本薬剤師会から協力依頼がありましたので、貴会会員への周知をお願いいたします。

㊥

日薬業発第 442 号
令和８年２月 17 日

都道府県薬剤師会担当役員　殿

公益社団法人日本薬剤師会
副会長　荻野　構一

「薬局薬剤師を対象とした薬剤耐性（AMR）と抗菌薬適正使用に関する知識・態度・行動の現状についての横断的研究」に関するアンケート調査へのご協力のお願い

平素より本会会務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、AMR 臨床リファレンスセンターより、別添のとおり、薬剤耐性(AMR)と抗菌薬の適正使用に関する薬局薬剤師の知識、態度、行動の現状を把握するため、アンケート調査を実施する旨の連絡がありましたので、お知らせいたします。

つきましては、本調査の概要につき、別添の依頼文書および研究説明文書、質問票をご参照ください。アンケート回答 URL 等については、下記に記載いたします。

会務ご多用のところ誠に恐れ入りますが、貴会会員にご周知いただき、本アンケート調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

■　別添資料
　別添１　依頼文書
　別添２　研究説明文書
　別添３　質問票

■　アンケート回答 URL：　https://hst.netr.jp/pharmacist/

■　回答期間：　2026 年 2 月 17 日～3 月 16 日 24 時まで

以　上

令和８年２月２日

公益社団法人　日本薬剤師会
会長　　岩月 進　殿

国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター
副院長（感染、危機管理、災害、救急担当）
AMR 臨床リファレンスセンター長
大曲　貴夫

薬局薬剤師を対象とした薬剤耐性（AMR）と抗菌薬適正使用に関する 知識・態度・行動の現状についての横断的研究へのご協力について（依頼）

謹啓

時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター AMR 臨床リファレンスセンターの運営等につきまして、日ごろから格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

薬剤耐性（AMR）の問題は全世界で取り組むべき課題であり、当センターは政府が策定した「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」に基づき、一般国民および医療従事者への調査活動を行っております。

薬局薬剤師は、抗菌薬を適切に使うための情報を患者に直接伝える重要な役割を担う専門職です。また薬局は地域住民が気軽に相談できる場であるため、薬剤師の知識や行動が地域全体の啓発に大きく寄与すると考えられます。しかし、薬局薬剤師を対象とした AMR に関する知識・態度・行動に関する意識調査はこれまで多くは行われておらず、現状の理解や課題が十分に把握されていない状況です。

そのため今回、当センターにおきまして、全国の薬局薬剤師における薬剤耐性（AMR)および抗菌薬適正使用に関する知識や考え方、行動の現状を把握することを目的としたアンケート調査を実施する事となりました。

より多くの方に調査にご参加いただきたいと存じますので、全国的な職能団体である貴会にご協力をお願い申し上げる次第です。

調査はオンラインフォームを使用し、匿名のアンケート形式で実施いたします。回答は完全に任意とし、参加・不参加によっていかなる不利益も生じることはありません。取得したデータは本調査研究のみに使用し、適切に管理いたします。

貴会におかれましては、会員の皆様へのアンケート案内について、メール配信や Web サイト等を通じた周知にご協力いただけましたら幸いです。なお、会員個人の連絡先等をご提供いただく必要はございません。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、本研究の趣旨をご理解いただき、調査へのご協力についてご検討賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

【研　　究】薬局薬剤師を対象とした薬剤耐性（AMR）と抗菌薬適正使用に関する知識・態度・行動の現状についての横断的研究
【目　　的】薬剤耐性と抗菌薬の適正使用に関する薬局薬剤師の知識、態度や行動の現状を調査し、把握することを目的とする。
【調査対象】日本において薬剤師免許を有し、薬局に勤務する薬剤師
【調査方法】インターネット上のアンケートフォームに質問票を用意し、対象者がアンケートフォームにアクセスし、質問に回答する。
【調査期間】2026 年２月 17 日～2026 年３月 16 日（予定）

問い合わせ先：　国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　国際感染症センター
AMR 臨床リファレンスセンター　藤友 結実子、佐々木 秀悟
mail：amr@jihs.go.jp

以上

Version 1.0（2025 年 11 月 23 日）

研究に関するお知らせ
「薬局薬剤師を対象とした薬剤耐性（AMR）と抗菌薬適正使用に関する知識・態度・行動の現状についての横断的研究」への参加のお願い

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター AMR臨床リファレンスセンターでは、以下にご説明する研究を行います。研究の説明に同意いただける方は、下記にチェックの上でアンケートへご回答ください。

□本研究に同意をし、回答いたします。

参加されなくても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。なお、この研究を行うことについては、病院内に設置されている倫理審査委員会で審査を受け、承認を得ております。

1. 研究目的・方法

昨今、抗菌薬の不適切な使用を背景に、薬剤耐性(AMR)が世界的な問題となっています。こうした状況に対応するため、WHO は 2015 年に AMR 対策の国際方針を示し、日本でも 2016 年および 2023 年にAMR対策アクションプランが策定されました。その中で、国民と医療従事者のAMRに関する知識や理解を向上させることが重要な柱とされています。

しかし、日本の一般の方を対象とした調査では、AMR や抗菌薬に関する基本的な理解は十分ではありません。2017～2024 年に実施した全国調査では、「風邪やインフルエンザに抗菌薬は効かない」と正しく答えた人は約 20%にとどまり、「AMR を聞いたことがある」という人も約40%にすぎませんでした。一方、医師の調査では、抗菌薬適正使用を意識する医師が多いものの、「患者から求められると必要性が低くても抗菌薬を処方することがある」と回答した医師が 6 割程度いました。患者の理解不足が医師の処方行動に影響する可能性が示唆されています。

日本では抗菌薬の多くが外来診療で処方され、患者への説明や服薬指導は薬局薬剤師が担っています。薬局薬剤師は、用法・用量、副作用、服用期間、不要な抗菌薬使用への注意など、抗菌薬を適切に使うための情報を患者に直接伝える重要な役割を担う専門職です。また薬局は地域住民が気軽に相談できる場であるため、薬剤師の知識や行動が地域全体の啓発に大きく寄与すると考えられます。しかし、薬局薬剤師を対象とした AMR に関する知識・態度・行動に関する意識調査はこれまで多くは行われておらず、現状の理解や課題が十分に把握されていない状況です。

本研究は、日本全国の薬局薬剤師を対象に、AMR や抗菌薬適正使用に関する知識・態度・行動、さらにそれらに影響する要因を調べることで、現状と課題を明らかにし、今後の薬局薬剤師向けの教育・研修、地域における患者教育、さらには日本の AMR 対策全体をより効果的に進めるための参考にいたします。

研究の方法は、回答いただく方にインターネット上のアンケートフォームにアクセスしていただき、AMRや抗菌薬適正使用に関する質問に無記名でご回答いただく形となります。

2. 研究に用いる試料・情報の種類、2次利用について

上記の対象期間中に回収されたアンケートを、研究に使用させて頂きます。このアンケートを新たな研究に利用する場合は、新たな研究の研究計画書等を倫理審査委員会に付議し、承認されてから利用

いたします。

なお、アンケートは2026年3月16日24時までにご回答ください。ご協力よろしくお願いいたします。

3. 研究の対象となる方

日本国内における薬剤師資格を所持されている方

4. 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

本研究は無記名式のアンケート結果を収集して解析するため、研究対象者には、アンケート回答の手間が生じますが、それ以外に特段の不利益は生じません。

医学上の利益または貢献度については、本研究の成果が薬剤耐性菌対策に関する教育活動につながることにより、医学の発展に寄与することができ、研究成果が社会に還元されることで本研究の研究対象者も間接的に利益を受けることができます。

5. 研究に関する情報公開の方法

本研究の結果は、医学雑誌や学会で発表します。どの場合でも、個人情報が公開されることはありません。

6. 研究計画書及び研究の方法に関する資料の閲覧について

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、記載のお問い合わせ先にお申し出ください。

7. 個人情報等の取り扱いについて

本研究は無記名式のアンケート調査の結果を利用し、統計数字として処理します。アンケートに参加するかどうかは、配布をうけた方が自由に決められます。無記名のため参加の有無について個人が特定されることはありません。また、アンケートで患者の個人情報は取り扱いません。なお、アンケートを送信された後は、アンケートが無記名式であるため、参加への同意撤回ができませんのでご了承ください。

8. 試料・情報の保管及び廃棄の方法

研究計画書、アンケート結果用紙等の紙資料、コンピュータソフト等で解析した電子データは2部CDRに記録した上で、研究責任者が当センター内の鍵のかかるロッカーで保管します。情報の保管期限は研究結果の最終公表後3年間とします。廃棄時には印刷資料・電子媒体のデータいずれも読取不可能な状態にして廃棄します。

9. 研究期間

倫理審査委員会承認後～2027/12/31

10. 研究の資金源等と利益相反に関する事項

本研究の資金は、厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
「薬剤耐性（AMR）アクションプラン2023-2027年の実行における課題解決のための研究」（研究責任者　大曲貴夫）として行います。

研究全体・研究者個人として回避または申告すべき利益相反状態はありません。

11. 研究責任者：

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター
国際感染症センター・AMR臨床リファレンスセンター　センター長　大曲　貴夫

■お問い合わせ先
国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　AMR臨床リファレンスセンター
メールアドレス：amr@jihs.go.jp

2025/11/23 Ver1.0

質問票

【基本属性（背景因子】】

① 性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 回答しない

② 年齢を教えてください

1. 20 代　2. 30 代　3. 40 代　4. 50 代 5. 60 代以上

③ 薬剤師としての経験年数を教えてください

1. 1–4 年　2. 5–9 年　3. 10–19 年　4. 20-29 年

5. 30–39 年　6. 40 年以上

④ 勤務形態を教えてください。

1. 常勤　2. 非常勤

⑤ 勤務薬局の種類を教えてください。

1.主に近隣（又は同一敷地内）にある特定の病院の処方箋を応需している
2.主に近隣(又は同一敷地内)にある特定の診療所の処方箋を応需している
3.主に複数の特定の保険医療機関(医療モールも含む)の処方箋を応需している
4.様々な保険医療機関からの処方箋を応需している
5.その他（　　）

⑥ 勤務する薬局の処方箋枚数は 1 日平均どのくらいですか？いずれか 1 つ選んでください。

1. –24 枚　2. 25–49 枚　3. 50–74 枚

4. 75–99 枚　5. 100–149 枚 6. 150–199 枚 7. 200 枚以上

⑦ あなたが勤務する薬局の勤務薬剤師数（常勤薬剤師の人数+非常勤薬剤師の人数（おおよその数で構いません））を以下から選んでください。

1. 1 人　2. 2 人　3. 3 人　4. 4–5 人　5. 6 人以上

【知識：以下の質問に回答してください】

① 抗菌薬はウイルスに効く

【はい・いいえ・わからない】

② 抗菌薬はかぜやインフルエンザに効く

【はい・いいえ・わからない】

③ 抗菌薬の薬剤耐性とは、人が抗菌薬に効きにくい体質や免疫、耐性を持ってしまうことである

【はい・いいえ・わからない】

④ 抗菌薬の不適切な使用が薬剤耐性菌の増加につながる

【はい・いいえ・わからない】

⑤ 健康な人でも薬剤耐性菌を保菌していることがある。

【はい・いいえ・わからない】

⑥ 抗菌薬投与により嘔気・下痢などの副作用が出現するリスクがある

【はい・いいえ・わからない】

⑦ 中途半端に抗菌薬の使用をやめると薬剤耐性（AMR）のリスクが高まることがある。

【はい・いいえ・わからない】

⑧ 疾患により抗菌薬の服用期間がおおよそ決まっている。

【はい・いいえ・わからない】

⑨ 日本政府が作成・公開している「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を知っていますか。

1. 人に説明できる　2. 理解している　3. 名前だけ知っている　4. 全然知らない

⑩ 厚生労働省が作成・公開している「抗微生物薬適正使用の手引き」を活用していますか。

1. 活用している、活用したことがある　2. 知っているが活用していない
3. 「手引き」があることを知らなかった

【態度：以下の質問で当てはまるものを教えてください】

① 薬剤師は抗菌薬適正使用を推進する重要な役割を担っていると思う。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない

4. あまりそう思わない 5. そう思わない

② 患者さんに「かぜに抗菌薬は効かない」と説明することは重要だと思う。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない

4. あまりそう思わない 5. そう思わない

③ 患者さんが本来なら抗菌薬は効果がない疾患（風邪など）に抗菌薬の処方や効果を期待していると、説明が難しいと感じる。

1. 強くそう感じる　2. そう感じる　3. どちらとも言えない

4. あまりそう感じない 5. そう感じない

④ 患者さんから質問された時に抗菌薬について説明する自信がある。

1. とても自信がある　2. 自信がある　3. どちらとも言えない

4. あまり自信がない 5. 自信がない

⑤ 医師の抗菌薬処方の根拠（処方理由、選択された薬剤）に疑問がある場合、問い合わせたり提案したりすることは簡単である。

1.とても気軽に問い合わせることができる

2.気軽に問い合わせることができる

3. どちらとも言えない

4. 問い合わせることはあまり気軽にはできない

5. 問い合わせることは全く気軽にはできない

⑥ 医師から処方された抗菌薬の投与方法（用法用量、日数など）に疑問がある場合、問い合わせたり提案したりすることは簡単である。

1. とても気軽に問い合わせることができる

2. 気軽に問い合わせることができる
3. どちらとも言えない
4. 問い合わせることはあまり気軽にはできない
5. 問い合わせることは全く気軽にはできない

⑦ 薬剤耐性に関する最新情報を学ぶ必要性を感じる。
1. 強くそう感じる　2. そう感じる　3. どちらとも言えない
4. あまりそう感じない 5. そう感じない

【行動：以下の質問にお答えください】

① 抗菌薬を処方された患者さんに、服用方法（回数・期間）を説明している。
1. 毎回説明する　2.時々説明する　3. あまり説明しない
4. 説明しない

② 患者さんが「風邪」と思われる症状に抗菌薬の処方や効果を期待していると、抗菌薬の適正使用の説明を控えることがある。
1. 説明を控えることはない　2. あまり説明を控えることはない
3. 時々説明を控える　4. 毎回説明を控える

③ 抗菌薬の副作用やアレルギーの可能性について説明している。
1. 毎回説明する　2. 時々説明する　3. あまり説明しない
4. 説明しない

④ 間違った期待（「早く治りたいから強い薬を」「悪化しないように抗菌薬を」など）を修正する説明を行う。
1. 間違っていれば毎回説明する　2. 間違っていれば時々説明する　3. 間違っていてもあまり説明しない　4. 説明しない

⑤患者さんから抗菌薬に関する誤解や不安について質問されたとき、正しく説明できている。
1. 毎回説明できている　2. 時々説明できている　3. あまり説明できていない
4. 説明できていない

⑥　抗菌薬の処方意図を医師に疑義照会した経験がある（直近 3 か月）
1. 頻繁に疑義照会している　2. 時々疑義照会している
3. あまり疑義照会していない　4. 疑義照会しない

⑦　薬剤耐性（AMR）に関する患者さん向けリーフレットを渡したことがある
1. 頻繁に渡している　2. 時々渡している　3. あまり渡してない
4. 渡していない
⑧　過去 1 年間に、薬剤耐性（AMR）や抗菌薬適正使用に関する情報を得た
1. 頻繁に得た　2. 時々得た　3. ほとんど得ていない
4. 得ていない
⑨　薬剤耐性関連の研修や講習に参加している。
1. 頻繁に参加している　2. 時々参加している
3. あまり参加してない　4. 参加していない

【障壁：薬剤耐性対策活動についてあなたに当てはまるもの、あなたが感じているところをお答えください（複数回答）】
①　薬剤耐性対策活動として何をしたらよいかわからない
②　患者さんに説明する時間がない
③　患者さんが説明を望まない
④　薬局内に説明ツールがない（リーフレットなど）
⑤　自分の説明に自信がない
⑥　医師に患者さんへの説明内容を誤解されないか不安
⑦　AMR に関する知識が不足していると思う

⑧ 薬剤耐性対策活動を十分行なっているので、特に困っていない
⑨ 薬剤耐性対策活動の必要性を感じない
⑩ 薬剤耐性対策活動についてあまり関心がない
⑪ 薬剤耐性対策活動に自分自身は関わらないと思う
⑫ その他（　自由記載　）

【情報源：AMR に関する情報をどこから得ていますか？（複数回答）】

- 厚生労働省または政府機関、国立感染症研究所、AMR 臨床リファレンスセンターが発信するインターネットサイト
- 厚生労働省または政府機関、国立感染症研究所、AMR 臨床リファレンスセンターが発信する動画・SNS
- 医療機関が発信するインターネットサイト
- 医療機関が発信する動画・SNS
- 地方自治体、保健所が発信するインターネットサイト
- 地方自治体、保健所が発信する動画・SNS
- 薬剤師会が発信するインターネットサイト
- 薬剤師会が発信する動画・SNS
- 医師会など薬剤師会以外の職能団体が発信するインターネットサイト
- 医師会など薬剤師会以外の職能団体が発信する動画・SNS
- その他企業や個人が発信するインターネットサイト
- その他企業や個人が発信する動画・SNS
- 学会からの情報（具体的に学会を記載してください:　　）
- テレビ・ラジオ
- 新聞・雑誌
- 医薬品メーカーなどの取引先
- 研修会
- 同僚、医療従事者の友人など
- その他（　　自由記載　　）

質問は以上です。ご協力いただき誠にありがとうございました。